

その結果、23人が集まって作ることが出来た。この名称を「久仁京介かこむ会」と命名したのです。いや、凄いことをやってくれたと。第一回の集まりにはみんなが喜んでくれました。この齢になって誕生した同級会が、久仁京介の名入りの同級会となったのです。とても嬉しくて泣けたりもした 70 代の後半でした。

若い頃と違って人との出会いも減った晩年、みんなで大きなテーブルを囲み飲み会をした、温泉旅行もした、大したジジイたちが集まったものだと感じました。コロナ禍の3年を挟んで、もう7年目。

勸進元の鶴木清二君は、残念ながら2022年7月故人となりました。しかしかこむ会は今もこうして存続し、会報も38号の発行に至って仲間が便りを寄せてくれます。

石碑除幕式にはかこむ会から6名一塊が出席、卒業生として我々が一番多かったというのは何か誇らしく感じたりもした。

長い間、忘れられていた、学校跡の記念碑がふたたび陽の目を浴びたわけ、その裏で「久仁京介かこむ会」として、この先まだ集うことが可能かどうかと思うとき、一抹の寂しさを感じたのは事実です。

時は、賑やかな幸せな時間を与えてくれた、しかし無情にも会える時間を容赦なく奪ってもいくのだとも知らされます。

久仁京介は仲間と同様に技術畑の出身なのに、友とは違った歌の世界に身を置いたのは、どうしてだったのだろうと、ぼんやりとひとり感じ入っている新年であります。

昨年から、松崎昂英君が嬉々として活動していることがあります。ユーチューブ「作詩家久仁京介の世界」から飛び出した素敵なおみあきという美人歌手です。新津や五泉市、そして全国で活動している歌手ですが、松崎君の行動を見ると、けっこう楽しみなながら心身ともに活性させているようで、ちょっと羨ましい時間の過ごし方だと感じています。

久仁京介もいましばらくの時間を生きて、歌書きをしていきます、併せて今年もかこむ会の仲間が元気で過ごせますよう祈念致します。